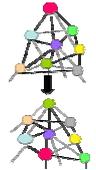




# 日本型地域ネットワークと地域通貨

岡田真美子  
兵庫県立大学



- ・本グループは、地縁、血縁以外の日本のネットワークシステム（講、宮座、結い、水掛りなど）に注目し、この日本的知的遺産を現代の地域づくりに生かす方策を考える。
- ・その際、かつてこれらの地域ネットワークが持っていた会議のシステム、合意形成手法を研究しつつ、実際に研究の場で実践し、共同研究の成果集約様式を開発する。
- ・上記で得た日本的知的遺産を現実に生かす方策として、現在注目を浴びている地域通貨制度を運用しながら実証研究し、日本の手法を受け継いだ形での活用を考え、現金のみに頼らない長寿社会の地域福祉向上の道を探る。
- ・以上の研究は ICT を活用して行われ、成果発表は言語記述と合わせて、視覚化に努める。最終的にはプロジェクトの叢書に成果を公開し、実際に政策提言することを目指す。

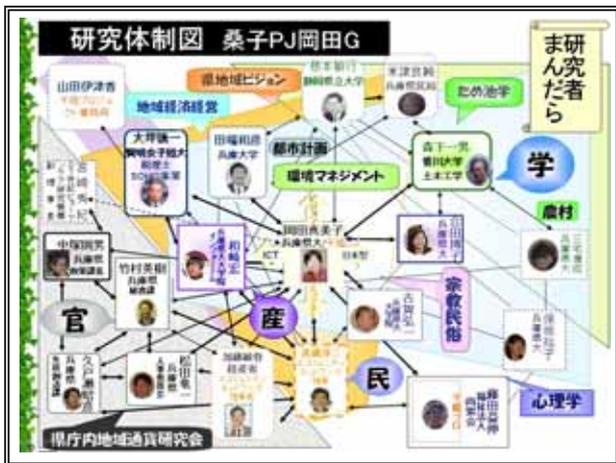
## 日本的シンポジウムスタイルの開発ができた

寄合いで出た「文殊の知恵」(ネットワーク創発知)を個々のフィールドにおける専門的研究に反映させ、その知見をまた持ち寄って有機的に結んでゆくことを心がけた。連歌シンボ形式を提案。従来のように発表者が銘々報告して質疑応答して終わるのではなく、最初のレクチャーのあと、2人目のレクチャーは、先の話の内容と関連付けながら発表し、メンバ全員同様にその場で得た新知見を自らの持つ関連知と結びつけてはなしあう(寄合い話)。その中から星座を見つける作業をする。懇親会はせず、直会座談会で終わる。その中から、日本的知的遺産の継承と再生について考えること、近過去を問い直すこと、場を共有しないひとに成果を伝える技を磨くことなどが、具体的な課題として浮かび上がってきた。



## 寄合いの中から官学協働企画が生まれた

人社プロジェクト1年目にして、早くも、地域ビジョン推進方策に研究成果が反映される(西播磨 相生市/太子町地域通貨プロジェクト立上げ)などの効果が現れてきている。中でも最大の成果は、阪神淡路震災復興10年を記念して、地域における関係性の継承と再生を探る国際会議を、桑子プロジェクトと兵庫県が協働して開催することが決まったことである。このプロジェクトがなければ到底実現していなかった企画である。今後も、桑子グループの空間チームと連携を図りつつ、12月の国際会議の成果も含め、実践活動・フィードバック/フィールドワークと文献研究を合わせながらさらに日本の地域ネットワークシステムに関する知見を深め、その成果を叢書出版と政策提言によって社会に還元してゆくことをめざす



「場と縁の継承・再生」国際会議のお知らせ  
International Symposium on "Space, Place, and Networking: Inheritance and Creation"

2004年12月18-19日(土日)兵庫県公館(写真上)で桑子プロジェクト(空間チーム+我々ネットワークチーム)は兵庫県と国際会議を共同主催します。本グループは国内外の実践者を集め、シンポジウム「地域通貨国際会議」とワークショップを行います。ご来場お待ちしております。